

ATP AWARD

2018

ASSOCIATION OF ALL JAPAN
TV PROGRAM
PRODUCTION COMPANIES
AWARD

▶▶ 第34回 ATP 賞 テレビグランプリ
受賞作を振り返る

創り手が選ぶ
創り手のための賞！



THE
34TH
GRAND PRIX

連続ドラマW
アキラとあきら

東阪企画 / WOWOW

ATP



グランプリ THE 34TH GRAND PRIX

グランプリ & 最優秀賞

GRAND PRIX & BEST AWARD



● ドラマ部門 ● 最優秀賞

連続ドラマW アキラとあきら

東阪企画
WOWOW



監督 水谷俊之
鈴木浩介 (ハニーバニー)
プロデューサー 青木泰憲 (WOWOW)
プロデューサー 内丸摂子 (東阪企画)

受賞者コメント

テレビ番組の創り手自身が選ぶ「ATP賞」。この度、数多くの作品の中からグランプリに選んで頂き、感謝の想いでいっぱいです。本作は、バブル経済とその崩壊、激動の時代を背景に「人はどう生きていくべきか」を「アキラとあきら」の生き様に託したドラマです。二人の宿命的な出会いから始まり、過去と現在が交錯する非常に難しい展開を脚本の前川洋一さんが見事に連続ドラマに仕上げて下さいました。知的で統率力のある階堂彬役の向井理さん、情に溢れる山崎瑛役の斎藤工さん。キャスト、スタッフ、関係者ら多くの皆様とも、宿命的な出会いだったと痛感しています。原作の池井戸潤先生、WOWOW青木泰憲P、水谷俊之・鈴木浩介両監督、音楽の羽岡佳さん、キャスト・スタッフの皆様心より深謝申し上げます。最後に…2009年、池井戸先生の「空飛ぶタイヤ」をドラマ化し、若くして急逝した弊社の先輩・土橋寛Pにこの喜びを報告したいと思います。

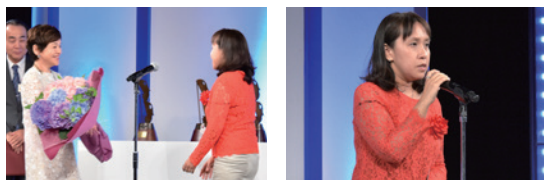
東阪企画 プロデューサー 内丸 摂子

最優秀賞

THE 34TH BEST AWARD

● ドキュメンタリー部門 ●

BS1スペシャル
父を捜して
日系オランダ人 終わらない戦争
椿プロ、NHKエンタープライズ/NHK BS1



受賞者コメント

日系オランダの人々にとって「父親探し」は過去と自分に向かい合うことでした。母と日本人を憎む義父との間に生まれた娘。苦しみながら自問自答していた姿が忘れられません。母はこう語ってくれました。「“憎しみ”が子どもに連鎖するのを断ちきる為私は苦しみの置き場を見つけようとした。それは“忘れる”ことではなく“乗り越える”こと」。戦争の傷を乗り越えようとする人間の強さ、家族の絆を前に心が震えた瞬間でした。

ディレクター 金本 麻理子 (椿プロ)



制作統括 塩田純 (NHK)
太田宏一 (NHKエンタープライズ)
ディレクター 金本麻理子 (椿プロ)
取材 本田昂輝 (椿プロ)
野崎忍 (椿プロ)
石井佳美 (椿プロ)
音響効果 河原久美子 (椿プロ)

● 情報・バラエティ部門 ●

いきものがかり水野良樹の
阿久悠をめぐる対話

ドキュメンタリージャパン、NHKエデュケーショナル/
NHK BSプレミアム



受賞者コメント

昭和歌謡界の巨人・阿久悠は「時代」に飲み込まれたのか？今、歌は皆に広がりにくくなっているのか？いきものがかり水野良樹さんは、自身の悩みとして真っ直ぐ、阿久さんゆかりのプロたちに投げかけます。この番組は登壇者全員の「歌」への熱量なくしてあり得ませんでした。阿久さんが遺された詞に水野さんが作曲、山本彩さんが歌う「愛せよ」誕生に立ち会えたのも幸運でした。協力いただいた全ての皆様に心から感謝致します！

プロデューサー 本木 敦子 (ドキュメンタリージャパン)



阿久悠氏写真 / © 久米正美

制作統括 大古滋久 (NHK)
高瀬雅之 (NHKエデュケーショナル)
プロデューサー 本木敦子 (ドキュメンタリージャパン)
ディレクター 山口恒治 (ドキュメンタリージャパン)
撮影 松村敏行 (いちまるよん)
編集 梅田宜嗣 (いちまるよん)
音響効果 増子彰 (TSP)

ドキュメンタリー
部門

BSIスペシャル 福島タイムラプス 震災7年目の映像詩

NHKエデュケーショナル/NHK BSI



受賞者コメント

「大きな喪失に見舞われたとき、人は何を支えに再生していくのか?」。そんな重い問いかけに対し、福島の方たちがそれぞれの生き方で示してくださった答えのかたちに、厳粛な思いに打たれ、励まされる日々でした。清水大輔さんがとらえた故郷のタイムラプスは、困難にも打ち負かされることのなかった、福島の人々の“尊厳”を表現したものであると思います。震災の記憶の風化が進む中、今回の受賞が改めて幅広い方々に福島を考えて頂く契機になれば嬉しく思います。

担当ディレクター 藤村 奈保子
(NHK エデュケーショナル)



制作統括 田島徹 (NHK)
鶴川陽一 (NHK エデュケーショナル)
ディレクター 藤村奈保子
(NHK エデュケーショナル)
撮影 岡野 崇 (NHKメディアテクノロジー)
音声 類家 翔 (KOZO プロ)
音響効果 田中啓子 (エルアールサウンド)
編集 前尾明子 (映像プロ)

ドキュメンタリー
部門

BSIスペシャル 離郷、そして… ～中国史上最大の移住政策～

テムジン、NHKグローバルメディアサービス/NHK BSI



受賞者コメント

20年前に作った番組では、ソ連時代、極東から中央アジアに移転させられた新聞社取材。以来、「移住」をテーマの一つとしてきました。今回の番組では、「強制移住させられる、かわいそうな人々」の悲劇ではなく、「移住に希望を見出さざるを得ない人々」が新たな搾取構造に取り込まれる過程を描きました。そのことは、殺伐とした日本社会に生きる私達にも意味があると念じつつ、桃源郷を捨てて移住した人々に幸あれと祈るばかりです。

ディレクター 増田 浩 (テムジン)



制作統括 千葉聡史 (NHK)
川口 潤
(NHKグローバルメディアサービス)
郭 強 (テムジン)
プロデューサー 矢島良彰 (テムジン)
ディレクター 増田 浩 (テムジン)
コーディネーター 李 岳林 (テムジン)
編集 森崎荘三

ドキュメンタリー
部門

ノンフィクションW ユーリー・ノルシュテインの、話の話。 アニメーションの神様 終わらない挑戦

日本電波ニュース社/WOWOW



受賞者コメント

この度は、優秀賞に選んでいただき、誠にありがとうございました。撮影、編集、コーディネーション含め、このスタッフが集まらなければ、この作品をつくることはできませんでした。また、時に激しい言い合いとなりながらも、最後まで取材に向き合って頂いたノルシュテインさん、日本でご協力頂いた高畑さんはじめ、多くの方々に、心より感謝を申し上げます。今後より良い番組作りに努めて参りたいと思います。

プロデューサー 平山 穂波
(日本電波ニュース社)



制作統括 内野敦史 (WOWOW)
プロデューサー 藤原麻知 (WOWOW)
平山穂波
(日本電波ニュース社)
ディレクター 高橋泰一
(日本電波ニュース社)
撮影 辻智彦 (ハイクロスシネマトグラフィ)
編集 前島健治 (ギトリ)
コーディネーター 児島宏子

情報・
バラエティ
部門

ブレイブ 勇敢なる者 硬骨エンジニア

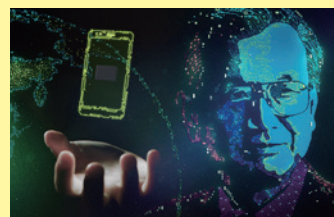
NHKエデュケーショナル/NHK 総合



受賞者コメント

30年前、東芝の“はみ出しエンジニア”が生んだ日本発の技術革新が世界を変えた——。しかし、この人類史に残る偉業は未だ十分な評価を得ていません。半導体は映像化が難しく、番組も約30年前の『電子立国』以来、本格的に取り上げたものは皆無でした。『ブレイブ』は昨年のドキュメンタリー部門に続き、二部門またいで受賞になります。既存のジャンル区分に囚われ固定化した番組観に一石を投じる問題提起となれば幸いです。

ディレクター 佐々木 健一
(NHK エデュケーショナル)



ディレクター 佐々木 健一
(NHKエデュケーショナル)
制作統括 三浦 尚 (NHKエデュケーショナル)
稲毛重行 (NHK)
撮影 藤田岳夫 (インフ)
編集 宮田耕嗣
CG制作 津田晃暢 (SANTY)
CGイラスト 羽毛田信一郎

情報・
バラエティ
部門

チョコちゃんに叱られる！

NHKエンタープライズ、共同テレビジョン、スタッフラビ/NHK 総合



受賞者コメント

素晴らしい賞をいただき、光栄でございます。「チョコちゃんに叱られる！」は、身近で素朴な疑問を徹底的に深掘りし、「世の中の面白さ」を楽しく伝えたいと企画した番組です。チョコちゃんという愛すべきキャラクターと出会い、4月からNHKでレギュラー放送を始めることができました。スタッフ一同、今回の賞を励みに、目を皿のようにして「疑問」を探し、家族で楽しめる番組を追求していきます。

制作統括 西ヶ谷 力哉
(NHK エンタープライズ)



制作統括 水高満 (NHK)
西ヶ谷力哉 (NHKエンタープライズ)
プロデューサー 小松純也 (共同テレビジョン)
中島由布子 (共同テレビジョン)
原島雅之 (スタッフラビ)
稲葉友紀子 (スタッフラビ)
ディレクター 河井二郎 (共同テレビジョン)

情報・
バラエティ
部門

4人のモナリザ 「謎の微笑」モデルの真実

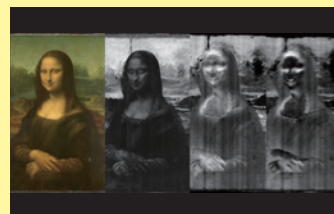
ドキュメンタリージャパン/NHK BSプレミアム



受賞者コメント

番組の主人公バスカル・コット氏（絵画科学分析の専門家）との出会いは2010年、『ダ・ヴィンチの指紋』という番組を製作した時に遡ります。彼が「モナリザの研究書を出版する。ぜひ貴方に番組化して欲しい」と打診してくれたのが出発点でした。海外の取材対象とこんな信頼関係を持てたのを、本当に有難く思います。苦楽を共にしたスタッフは勿論、コット氏とも一緒に受賞を喜びたいと思います。ありがとうございました！

演出 木村 竜太
(ドキュメンタリージャパン)



©PASCAL COTTE

演出 木村竜太 (ドキュメンタリージャパン)
構成 檀乃歩也 (ドキュメンタリージャパン)
撮影 角山正樹 (いちまるよん)
VE 戸田裕士
制作統括 河川歳彦
(ドキュメンタリージャパン)
大野 了 (NHK エンタープライズ)
鈴木貴晴 (NHK)

ドラマ
部門

テレビ東京ドラマ特別企画 テレパック／テレビ東京

冬芽の人



受賞者コメント

栄えある賞をありがとうございます。紅葉から雪の季節のロケ、鈴木京香さんが凛と演じる大沢在昌ハードボイルドは、圧巻でした。警察組織の隠蔽、過疎地の暗部などダークサイドを演じる名優たちに対峙するその眼差しと、すべてを氷解させる瀬戸康史さんの天使の笑顔は、スタッフの情熱をさらに掻き立て、皆、一丸となりました。大杉漣さん、天国の祝い酒、美味しいですか？スタッフキャストの皆様、本当にありがとうございました！

プロデューサー 黒沢 淳（テレパック）



チーフプロデューサー 中川順平（テレビ東京）
プロデューサー 小松幸敏（テレビ東京）
黒沢 淳（テレパック）
野田健太（テレパック）
企画協力 中田一正（ラクーンエージェンシー）
監督 佐々木章光（テレパック）
ラインプロデューサー 荻原 達（テレパック）

ドラマ
部門

プレミアムドラマ 全力失踪 日テレ アックスオン／NHK BSプレミアム



受賞者コメント

このまま消えてしまいたい…誰でも一度は考える事があるはず。日本には7年間生死が不明だと失踪宣告が下されるという法律があります。その間、逃げ切る事が出来れば、新しい人生を手に入れられる可能性があるのです。しかし逃げる事によって人は生まれ変わるのか？それを原田泰造が見事に、世間に問いかけてくれました。一風変わったテーマへの挑戦でしたが、この様な賞を戴けて本当に作れて良かった作品となりました。感謝です。

企画プロデューサー 大田 貴史（日テレ アックスオン）



企画＆プロデューサー 大田貴史（日テレアックスオン）
制作統括 菅原 浩（NHK）
池田健司（日テレアックスオン）
プロデューサー 坂下哲也（日テレアックスオン）
監督 岩本仁志（日テレアックスオン）
長沼 誠（日テレアックスオン）
田中峰弥（日テレアックスオン）

ドラマ
部門

金曜ロードSHOW! 特別企画 読売テレビ開局60年スペシャルドラマ 天才を育てた女房 世界が認めた数学者と妻の愛 ザ・ワークス／読売テレビ



受賞者コメント

今回の受賞は、4年の長きに亘る取材、交渉、研究、考証、検証という努力が報われた様で、とても感激しております。それも、ともすれば敬遠されがちな「数学」という題材にチャレンジさせて頂いた読売テレビ様、「数学者」という題材に果敢に挑んで頂いた天海さん、佐々木さんを初めとする俳優の皆さん、また、その映像化に知恵を絞ってくれた落合監督、脚本の林さん達スタッフのご努力があったからこそ。本当に有難うございました。

プロデューサー 霜田 一寿（ザ・ワークス）



監督 落合正幸（マーキュリー・アーツ）
チーフプロデューサー 岡本浩一（読売テレビ）
プロデューサー 汐口武史（読売テレビ）
霜田一寿（ザ・ワークス）
伊賀宣子（ザ・ワークス）
脚本協力 松原さおり
数学監修 高瀬正仁

奨励賞

THE 34TH INCENTIVE AWARD

ドキュメンタリー部門

サンデースペシャル
ザ・ノンフィクション特別編
泣き虫舞妓ものがたり
バンエイト／ビーエスフジ



語り 大路恵美（アンジィ）
構成 味谷和哉（フジキャリアデザイン）
編集 中谷江志、宗像 孝（ビーエスフジ）
演出・プロデューサー 市川雅康
（バンエイト）
プロデューサー 進藤圭司（バンエイト）
チーフ・プロデューサー 張江泰之
（フジテレビ）

受賞者コメント

この度は奨励賞を頂き、誠に有難うございます。今までシリーズ番組として15年かけて取材してきた中で、今回の特別編は集大成のつもりで作りました。頂いた賞は、取材でずっとお世話になってきた方々や長年頑張ってくれたスタッフ全員に頂いた賞だと思います。中でも、思春期の難しい時期からカメラという異物を受け入れ続けてくれた舞妓さん達、我々を理解してく下さったお茶屋のおかあさんには、特に感謝の気持ちで一杯です。

演出・プロデューサー 市川 雅康
（バンエイト）

ドキュメンタリー部門

NHK BSIスペシャル **命の巨大倉庫**
ホームルーム／NHK BSI



ディレクター 伊藤めぐみ（ホームルーム）
撮影 藤田岳夫（インフ）
取材 尾立和枝（ホームルーム）
編集 前高健治（ギトリ）
制作統括 内田俊一（NHK）
高瀬雅之（NHKエデュケーショナル）
広瀬涼二（ホームルーム）

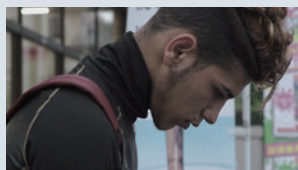
受賞者コメント

現在のテレビ取材では「危険地域」と指定されている場所に行きづらく、行けたとしても援助物資の背後の世界すべては伝わりません。「硬くない」方法で見せることができたのは番組スタッフが現場や映像から感じたものを引き出してくれたおかげです。受賞は嬉しいですが物資が届く紛争地の人たちに与えるいいニュースは別のところにあることを「巨大倉庫」は伝えてくれている様に思います。

ディレクター 伊藤 めぐみ
（ホームルーム）

ドキュメンタリー部門

テレメンタリー2018
TOKYO KURDS／東京クルド
ドキュメンタリージャパン／テレビ朝日



プロデューサー 東 卓夫（テレビ朝日）
牧 哲雄（ドキュメンタリージャパン）
ディレクター 日向史有（ドキュメンタリージャパン）
撮影 松村敏行（いちまるよん）
金沢裕司
ミキサー 富永憲一（NEO P&T）
音響効果 増子 彰（東京サウンド・プロダクション）
EED 織山臨太郎（いちまるよん）

受賞者コメント

この度は、大変嬉しく思います。「東京クルド」という番組は、日本に暮らす18歳のトルコ系クルド人難民のひと夏を描いた番組です。3年間通らなかった企画でした。会社の自主制作という形で取材をスタートしTokyo Docsでの上映を機に、番組化に繋がりました。日本では注目されないトルコ系のクルド人たち。今回の受賞は、彼らに光を当ててもらったような気持ちになりました。

受賞を通じて、彼らの問題が更に広く伝わるよう願っています。

ディレクター 日向 史有
（ドキュメンタリージャパン）

ドキュメンタリー部門

Abema×GLOBE
「野獣」という名の列車をたどって
AbemaNews／AbemaTV（ニュースチャンネル）



取材・撮影 村山祐介（朝日新聞）
プロデューサー 佐々木 毅
（AbemaNews／テレビ朝日）
ディレクター 後藤はな（AbemaNews／テレビ朝日）
杉原啓太（AbemaNews／テレビ朝日）
小久保泰二
（日本ケーブルテレビジョン）
編集 土門 あき（フレックス）

受賞者コメント

村山記者の圧倒的な取材力と撮影力に打ちのめされ「新聞記者がここまで撮る時代になったか」と脅威すら覚えました。配信後、本人からは「敗北感」を感じた。同じ取材なのに、紙面より番組の方が面白く深かった」とのメールが…。メディア激変の時代、互いの「敗北感」を持ち寄り、熱く語りあい、新たな可能性を見出すことができた「野獣」チームに感謝！「伝えたい」という熱意はメディアに関係なく届くのだと実感できました。

ディレクター 後藤 はな
（AbemaNews）

情報・
バラエティ
部門

ポツンと一軒家

ジャンプコーポレーション、NEXTEP、
ガッツエンターテインメント、チャプター／朝日放送



プロデューサー 植田貴之（朝日放送）
一丸拓之（ジャンプコーポレーション）
総合演出 高橋章良（チャプター）
演出 古原幸一（ジャンプコーポレーション）
企画・構成 中野俊成、伊藤正宏
ディレクター 熊田明弘（ジャンプコーポレーション）

受賞者コメント

大改造！劇的ビフォーアフターの制作チームが、家シリーズ2部作の第2弾として発案し生まれたのが、この「ポツンと一軒家」。内容は、タイトル通り。衛星写真で見つけた人里離れた山奥にポツンと建つ一軒家を探して訪ね、どんな人がどんな暮らしを営んでいるのだろうと確かめに行く番組。企画は至ってシンプルだが、毎回予想外の思いがけない展開に撮影隊もドキドキ。そのリアルさが視聴者にも伝わっているのだろうと実感している。

総合演出 高橋 章良（チャプター）

情報・
バラエティ
部門

100分deメディア論

テレコムスタッフ／NHK Eテレ



プロデューサー 秋満吉彦（NHKエデュケーション）
横山敏子（テレコムスタッフ）
ディレクター 羽根井信英（テレコムスタッフ）
アシスタント・ディレクター 辻本晃平（テレコムスタッフ）

受賞者コメント

メディアのあり方を問う番組を作るのは自らを再確認させられる作業だった。名著が指摘する批判は当然我が身に突き刺さり、番組もまたステレオタイプや単純化から逃れ得ない。ただ空気支配や『1984年』の状況が次々露呈する「今」を意識して演出した。NHKだし、という付度は無用で！とお願いした以上に熱く語って下さった出演者に感謝。「NHKの本気を見た」という感想も見たが、実は独立プロダクションの本気だぜと言っておく。

ディレクター 羽根井 信英（テレコムスタッフ）

情報・
バラエティ
部門

小野田さんと、雪男を探した男 鈴木紀夫の冒険と死

テレコムスタッフ、NHKエンタープライズ／
NHK BSプレミアム



演出 君塚 匠
脚本 仲井 陽
ディレクター 秋原 翔（テレコムスタッフ）
プロデューサー 奥田朋之（テレコムスタッフ）
制作統括 千葉聡史（NHK）
島田雄介（NHKエンタープライズ）
長嶋甲兵（テレコムスタッフ）

受賞者コメント

冒険家 鈴木紀夫さんは、命がけで未知を追いつけた人でしたが、大変子煩悩な家庭人でもありました。その融通無碍な魅力に引き寄せられるように、素晴らしいスタッフとキャストが集まり、非常に熱量の高い現場が生まれました。“検索万能”の時代ですが、私たちテレビ人も“未知”を追いつける類の人間であるはずですよ。とたく窮屈で小さくなりがちな今、私も、彼から希望と励ましをもらったような思いがしています。

プロデューサー 奥田 朋之（テレコムスタッフ）

ドラマ
部門

きみはペット

AOI Pro.／フジテレビ



プロデューサー 岡本真由子（フジテレビ）
櫻井由紀（エスピーオー）
代情明彦（AOI Pro.）
脚本 新井友香
古賀文恵（ベイビープラネット）
演出 熊坂 出、御法川 修

受賞者コメント

『世界に通用するラブコメを！』を合言葉に、全16話という世界基準の話数の中で原作の魅力を掘り下げ、脚本から撮影、演技、演出、編集の細部に至るまでスタッフ・キャストが徹底的にこだわり丹念に制作しました。国内放送や配信（FOD）でも熱烈的な“きみペ”ファンを生み出し、また海外でも同時期放送＆配信した中国、韓国、香港をはじめ、今では世界20か国以上で楽しまれています。この度の受賞を関係者一同感謝いたします。

プロデューサー 代情 明彦（AOI Pro.）

ドラマ
部門

プラチナイト 木曜ドラマ 脳にスマホが埋められた！

メディアミックス・ジャパン／読賣テレビ



プロデューサー 前西和成（読賣テレビ）、中間利彦（読賣テレビ）
遠田孝一（メディアミックス・ジャパン）
企画 鈴木おさむ（スマイルカンパニー）
演出 寛 昌也（オリガミクスパートナーズ）

受賞者コメント

本作の企画は鈴木おさむさん。著書「新企画」を原案に、まさしく鈴木さんならではの「今の時代のあるある感」に溢れています。主人公は企画当初から伊藤淳史さん以外考えられず、それが成功の殆どと言っても過言ではありません。そして寛監督と脚本家森さんがSFと言うには憚られるほどの小さくてゆるい未来像を「遊びココロ」一杯の演出でまとめてくれました。こんな粋な作品に仕上がったのは全キャスト、スタッフの賜物です。

プロデューサー 遠田 孝一（メディアミックス・ジャパン）



総評

COMPREHENSIVE EVALUATION

改革の波の中、各部門・秀作揃い —



審査委員長 福浦 与一

ATP 賞の特徴は「プロがプロの目線で審査する」。構成・カメラアングル・編集・キャスティング・コスパ…視聴者にはない目線で厳選します。この1年は製作会社にとって特別な年でした。様々な改革の波が押し寄せました。そんな中、各部門秀作が揃い嬉しく思います。注目すべきは、ドキュメンタリーが新たな時代に突入したこと。進化した機材による映像美、洗練された演出。今まで見ることのできなかった世界が広がっています。ドラマはオリジナルストーリーも奮闘し、全てがハイレベル。ドキュメンタリーと共に、放送枠増を願っています。バラエティは成熟期を迎え、完成度の高いものが多くありました。その一方で新たな価値観を持った若いチームの必要性も感じました。番組製作会社には様々なアイデアと演出がまだまだ眠っています。テレビが挑戦を恐れない、強いメディアであり続けることを切に願います。



REVIEW OF DOCUMENTARY PROGRAM

● ドキュメンタリー部門 ●

「多様性」感じた
テレビならではの
新しい試み

全作品を見終わって感じたのは「多様性」ということであった。取り上げるジャンル、テーマの幅がさらに広がってきているだけでなく、素材の切り口、手法、進化する機材の活用など、テレビならではの新しい試みに果敢にチャレンジする番組も多く見受けられ、今後の可能性に希望を感じた。BS番組の応募が多かったということもあると思うが、長時間番組が多く、入賞作品と紙一重の見ごたえある力作が目白押しであった一方、テーマの追求、構成などが緩くなってしまうと感じられる番組も見受けられた。最優秀に選ばれた「父を捜して」は前後編100分を緻密な取材と構成力で、戦争がもたらす禍根を大河ドキュメンタリーとして描き切っていた。

審査委員 田野 稔

REVIEW OF DRAMA PROGRAM

● ドラマ部門 ●

企画の成り立ち、
斬新性、演出…
全作品を丁寧に審査

応募総数は昨年より9作品多い35作品でした。ミステリー・時代劇・経済ドラマ・文芸作品・ラブストーリーなどあらゆるジャンルの意欲作を前に審査委員の意見が割れた状況で審査は始まりました。そこで全ての作品を、企画の成り立ち、斬新性やオリジナリティー、プロットと脚本、キャスティングと演出、2017年度に放送または配信された意義、そして最後に限られた予算の中で制作現場がクオリティーを高める努力をどれだけしたのかを一作品ごとに丁寧に検討して最優秀賞、優秀賞、奨励賞の順番で審査委員3名の決を取りながら贈賞作品を決めました。3名の審査委員で結論が出ない局面では審査委員長に判断を求め、公正を期し、審査を終りました。

審査委員 沼田 通嗣

REVIEW OF INFORMATION VARIETY PROGRAM

● 情報・バラエティ部門 ●

綿密なリサーチ、
練りに練られた
構成を評価

昨年の32作品を大幅に上回る49作品の応募をいただき感謝致します。全体としては綿密なリサーチと練りに練られた構成が光る作品が評価されました。企画・発想力が群を抜く作品もありましたが、視聴者を引き付け最後まで飽きさせないためには、それだけでは物足りなさを感じました。審査員からのメッセージとして奨励賞「100分 de メディア論」は、テレビというマスメディアに携わる方々には是非観ていただきたい作品である事をお伝え致します。最後に当部門受賞7作品のうち6作品がNHKで放送された番組です（応募内訳：NHK 22、民 23、ネット系 4）。「今のNHKはアグレッシブで挑戦的だ」との意見が出た事を付け加えさせていただきます。

審査委員 荻原 伸之

最優秀新人賞 & 優秀新人賞

BEST NEWCOMER AWARD



房 満 満 テムジン



最優秀新人賞 & 優秀新人賞

BEST NEWCOMER AWARD & EXCELLENCE NEWCOMER AWARD

ドキュメンタリーWAVE

激動の家族史を記録する

中国・新たな歴史教育の現場



受賞者コメント

夢のような賞を頂き、心より感謝申し上げます。文化大革命などの歴史をよく知らなかった私は、この取材で初めて母国の歴史を心で感じられた気がします。中国の政治体制内で新たな歴史教育を試み、しかも外国メディアの取材を受ける事は大変なリスクを伴いますが、それでも私達を受け入れて下さった先生方には感謝してもしきれません。取材した2人の子供は家族の歴史と初めて向き合い、家族の気持ちを理解しようと変化していきました。その小さな変化から、私は中国の希望を感じました。中国社会には様々な問題がありますが、人々は無関心で金やコネのことばかり考えています。しかし一方で、番組の主人公の先生のように、周りから理解されずリスクを背負っても、中国をより良くするために信念を貫く人も存在します。私はそのような人たちに寄り添い、祖国が真に誇れる国になって欲しいという願いを込めて、これからもドキュメンタリーを作って行きたいです。

優秀新人賞

EXCELLENCE
NEWCOMER AWARD

飯塚 淳

NHKエデュケーショナル



ETV特集

アイ アム ア ライブラリアン

～多国籍タウン 大久保～

受賞者コメント

本の力を信じ、日本で暮らす様々な国の人のために奮闘する図書館長。決して派手さはないけれど、大切だと思える出来事と出会い、それを育ててできた番組でした。大久保に通い、街の人と言葉を交わす日々のなかで、ディレクターとしてどんな姿勢で番組作りをするべきかを教えられました。自分が感じた小さな違和感は安易に飲み込まず、じっと深く考える。そんなことを大事にして、制作者として力をつけていきたいと思います。



野中 翔太

日テレ アックスオン



サンバリュ 怪盗シティ

受賞者コメント

この度は優秀新人賞にお選び頂きまして、誠に有難うございます。このような栄えある賞を受賞させて頂き、大変嬉しく思っております。ご出演者・制作スタッフはもちろんのこと、熱海市の皆様のご協力無くして成立しなかった番組です。番組関係者・ロケ当日に番組の通報システムにご参加して下さい一般市民の方など全ての方々に感謝の思いでいっぱいです。今後の番組制作にこの経験を生かしていきたいと思います。



中尾 幸代

アズバーズ



この世に たやすい仕事はない

受賞者コメント

27歳で業界に入りはや何年、という私が初プロデュース作とはいえ新人賞を頂戴できるとは思ってもみませんでした。本当にありがとうございます。「お仕事ファンタジー」という未知のジャンルに挑戦した本作は、低予算のなかスタッフ・キャストが全力で妄想想像力をぶつけてくれたお陰で、唯一無二の作品に仕上がったと自負しています。また、脚本家としても活動する私に兼務する機会をくださった NHK の皆様に深く御礼申し上げます。



©NHK

奨励新人賞

ENCOURAGEMENT NEWCOMER AWARD

牟田 高太郎 テレコムスタッフ

名盤ドキュメント 喜納昌吉&チャンブルーズ
沖縄から世界へ〜「ハイサイおじさん」の衝撃



受賞者コメント

今から40年前、当時29歳の喜納昌吉さんが全身全霊を掛けて生み出したデビューアルバムには、強烈な才能とエネルギー、戦後沖縄の生々しい日常など、驚きが溢れていました。気づいたら、自分がアルバム制作現場にタイムトリップしている感覚になるほど仕事に没頭できた最高の日々でした。灼熱の沖縄撮影で、孫ほど年の離れた私に真正面から向き合ってくれた喜納さん、出演者とスタッフの皆様、家族に改めて心より感謝申し上げます。

平野 玲二 いまじん

1周回って知らない話

1周回って知らない24時間テレビへの禁断の質問連発SP
24時間テレビ第1回放送・時代を彩ったパーソナリティの歴史



受賞者コメント

「24時間テレビはなぜ生まれたのか？」当時の映像や資料、関係者の証言を徹底的に調べました。するとそこにあったのは僕たち若い世代が見た事のない『テレビの持つ圧倒的な力』でした。視聴者を巻き込んだ凄まじい盛り上がりは単に『昔の話』ではなく、心動かされるものがありました。その熱量をできるだけ伝えようと意識して作りました。そんなテレビの世界にいる喜びを噛み締め、良質な番組作りに励んでいきたいと思います。

三浦 広大 日テレ アックスオン

ネクストブレイク 最年少×最年長



受賞者コメント

この度は大変栄誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。業界の最年少と最年長を会わせてその化学反応を見る。このコンセプトに悩まされ続けた4ヶ月でした。企画自体は自分で提案したのですが、諸先輩方に力を借りてやっと形になった作品です。今回は関東ローカルの放送だったので、この受賞をきっかけにして次回は全国の人に「笑いを届ける」そんな番組を作れたらと思います。

鹿島 悠 NHKエンタープライズ

土曜時代ドラマ アシガール



受賞者コメント

「主人公のファンになれば、毎週見たいドラマになる！」という原作キャラクターの魅力推しで提案した企画でしたが、『馬と並走』、『敵兵三千』など実写化の難しさを痛感。脚本・演出・ロケ地・美術・時代考証・所作・殺陣・芸能指導など、全ての分野において、NHK時代劇を支えてきたプロ達の存在無しには成立しない作品でした。ドラマはチームプレーだと体感できたことが一番の財産です。こたびの受賞、光栄至極に存じます。

新人賞
総評

「新たな発想、挑戦」など重視し選考 ―



審査委員長 井上 啓子

応募総数はドキュメンタリー6作品、情報・バラエティ6作品、ドラマ4作品の計16作品でした。選考では次の3点を重視しました。①企画は本人がたてたものか。②「新しい発想、挑戦」があるか。③荒削りでもいいので、みずみずしいエネルギーを感じるか。ドキュメンタリー部門については、ほぼ満場一致で決定。ドラマ部門については、「この世にたやすい仕事はない」の中尾幸代さんについて、すでに脚本家としてキャリアを積んでいらっしゃることをどう評価するか、議論となりました。最も時間がかかったのは、情報・バラエティ部門です。ゴールデン帯では、新人Dが企画を立て全体を演出するということはほとんどありません。総合演出がいる中で取材Dとして作った作品をどう評価するか、議論となりました。多くの新人が、コーナーを担当しながら腕を磨いているのが現状だと思います。そういう方々に少しでも光があたり、この賞が若い力の希望となることを願っています。

特別賞

SPECIAL PRIZE

「世界ふしぎ発見！」 制作チーム



受賞者コメント

ATP 賞特別賞の贈賞ありがとうございました。「世界ふしぎ発見！」は 1986 年の放送から 32 年、TBS 土曜日プライムタイムという貴重な時間で放送を続けさせていただいています。「歴史と遊ぶ」という最初のコンセプトは今も私たちの基本精神です。レギュラー出演の草野仁さん、黒柳徹子さん、野々村真さん、提供しつづけていただいている日立製作所との共感があってこそ今、スタッフはさらに新しい未来への挑戦を楽しんでいます。

プロデューサー 重延 浩 (テレビマンユニオン)

帯ドラマ劇場 「やすらぎの郷」



© テレビ朝日

受賞者コメント

ご年配の方々が見やすい時間帯に毎日楽しめるドラマを創りたいという倉本聰氏の発案で企画がスタート。昼の帯ドラマが無くなった時期で、時代に逆行するようで正直不安な船出でした。ですが、あらゆることを凌駕する脚本を頂き、それを豪華なキャストで映像化することができました。不安はあっという間に大きな手応えに。本当に貴重な体験をさせて頂きました。来年、続編が決定！この受賞と合わせ、関係した皆様に感謝しています。

プロデューサー 中込 卓也 (テレビ朝日)



プロデューサー 重延 浩 (テレビマンユニオン)
荒井麻理子 (TBS)
岩垣 保 (テレビマンユニオン)
大塚修一 (テレビマンユニオン)
佐藤寿一 (テレビマンユニオン)
齋藤龍太 (テレビマンユニオン)
高木 昇 (テレビマンユニオン)

演出



チーフプロデューサー 五十嵐文郎 (テレビ朝日)
プロデューサー 中込卓也 (テレビ朝日)
服部宣之 (テレビ朝日)
河角直樹 (国際放映)
演出 藤田明二 (テレビ朝日)
阿部雄一 (5年D組)
池添 博 (5年D組)

総務大臣賞

MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS
AND COMMUNICATIONS AWARD

総務大臣賞

MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD

特集ドラマ くらら 眩～北斎の娘～

NHKエンタープライズ/NHK 総合



制作統括 佐野元彦
(NHK エンタープライズ)
中村高志 (NHK)
演出 加藤 拓 (NHK エンタープライズ)
美術 稲葉寿一 (NHK アート)
技術 水野富裕
(NHK メディアテクノロジー)
音響効果 島津案貴 (NHK)

受賞者コメント

「世界の北斎」の影に隠れたもうひとりの天才絵師である北斎の娘・お栄の半生を描いたこのドラマは、企画当初から海外でも観て頂く事が目標の一つでした。実際、英語版はカンヌのMIPCOMでアジアワールドプレミアとして4K上映され高い関心を集め、NHKワールドでの放送でも予告動画が53 万回再生され異例の評判を呼びました。今回の受賞を励みにさらに海外での展開を図りたいと考えています。本当にありがとうございました。

エグゼクティブ・プロデューサー 佐野 元彦 (NHKエンタープライズ)

総務大臣賞 総評



審査委員長 林 健嗣

秀逸な演出、日本を代表する作品 —

審査は、制作体制・視聴環境と海外ニーズに対する視点の違いで、評価が分かれ、最終的に、ドラマ2作品、ドキュメンタリー2作品に討論が絞られました。Tokyo Docs からカナダのHOT DOCSに招かれた「東京クルド」は、日本の課題に迫ったタイムリーな作品でした。「福島タイムラプス」は、震災後7年を新たな視点で見つめようとする意欲作でしたが、海外の期待に応えるには至らないと判断しました。ドラマ2作品は、偶然にも天才と共に生きた女性を描く単発スペシャルドラマ。全く味わいの違う作品に対し、意見が分かれました。オーソドックスな構成・演出で既に海外展開が進む「天才を育てた女房」。一方、日本のアイコンというべき稀代の浮世絵師北斎の娘お栄を描き、陰影の照明と美術、女優宮崎あおいの好演を導いた秀逸な演出が光り、日本を代表する作品として最終的に、「眩～北斎の娘～」に決定しました。

審査委員会

審査委員長 福浦 与一（IVS テレビ制作）

ドキュメンタリー部門

審査委員 大久保 徳宏（東阪企画）

審査委員 田野 稔（グループ現代）

審査委員 三浦 庸子（ヴィジュアルフォークロア）

情報・バラエティ部門

審査委員 大野 光浩（えすと）

審査委員 荻原 伸之（ジッピー・プロダクション）

審査委員 白井 博（テレビマンユニオン）

ドラマ部門

審査委員 雨宮 望

審査委員 佐野 奈緒子（大映テレビ）

審査委員 沼田 道嗣（テレバック）

新人賞

審査委員長 井上 啓子（クリエイティブネクサス）

審査委員 天竺 ひろ美（ザ・ワークス）

審査委員 桑原 慶介（ジッピー・プロダクション）

審査委員 高井 健司（東阪企画）

総務大臣賞

審査委員長 林 健嗣（《a》）

審査委員 木下 勢治（アマゾンラテルナ）

審査委員 佐藤 幹夫（NHK エンタープライズ）

審査委員 品田 英雄（日経 BP 社）

審査委員 長谷川 朋子（放送ジャーナル）

主催：一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

後援：総務省、経済産業省、日本放送協会、日本民間放送連盟